

石川・富山の薬店 相次ぐ大量万引

石川、富山両県などに展開する大型ドラッグストアで大量万引被害が相次いでいる。狙われたのは値段が高く人気のある化粧品や医薬品で転売目的とみられる。組織的な万引行為に店舗側はネットで被害情報を瞬時に共有するITなどを駆使した対策に乗り出した。(沢井秀之)

巧妙な手口に 店はIT対抗

ドラッグストア・チェーンの担当者によると、狙われるのは知名度があり、数千〜一万円と高価な化粧品や薬品。石川県警の捜査関係者は盗品を高値で買い取る組織の存在も指摘する。今年三月に同県内の大型ドラッグストアで大量の商品を盗んだとして、窃盗罪に問われた男二人の公判が十月に金沢地裁であった。検察側は、被告らが見張り役と商品を盗み出す役を分担し、東北から四国・中国地方まで車で移動しながら一日十数店で犯行していた手口を明らかにした。被害は一店あたり数万〜十数万円に上る。

被害情報を共有

不審者画像一斉メール



二人は事前に準備していたリストに従ってビタミン剤、医薬品などを短時間で盗んでいた。別のベトナム人グループの公判では、警報装置が鳴らないよう銀色幕を張り付ける細工をしたかばんを使

って盗む手口も明らかになっている。万引被害は今年に入り相次いでおり店舗側も対策にやっきた。北陸・中部地方を中心に七県で二百十三店舗を展開する「クスリのアオキ」(石川県白山市)は、被害が発生した場合、店長が防犯カメラの映像を確認。不審者が写っている画像をパソコンに取り込み、全店のパソコンに一斉メールし警戒する。狙われた商品の内容も同様に送る。石川・富山・岐阜の三県で六十三店舗を展開する「示野薬局」(金沢市)は、鍵付きの強化プラスチックケースの商品棚を富山市の店舗に試験導入。客から要望があるたびに商品を取り出すようになった。あるドラッグストア・チェーンの担当者は「大切なのは被害発生を素早くつかむこと。防犯カメラの画像情報を異なるチェーン店同士でも共有できれば」と訴えている。